

J A における自己改革および SDGs の取り組み事例

《 J A 広報誌および J A 自己改革ニュース 》

R 8 / 4 ・ 5 ・ 6 月分



令和 8 年 6 月



J A 青森中央会



THE GLOBAL GOALS

目次

ページ	J A名	自己改革・SDGsの活動・取り組みの名称	関連するSDGs目標			広報誌掲載号
1	ごしょつがる	①農業ふれあい教室で優秀賞 ②乾田直播栽培の理解深める ③大雪被害のハウス視察	4 質の高い教育をみんなに 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	13 気候変動に具体的な対策を 	2026年4月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
2	つがる弘前	①中弘南黒地区農協青年部交流会開催 ②フレッシュ部会研修会開催	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	11 住み続けられるまちづくりを 	2026年4月号
		農業者の所得増大 地域の活性化				
3	相馬村	①りんご樹再生のために… ②りんご学習贈呈式 ③飛馬共防肥料配布	4 質の高い教育をみんなに 	11 住み続けられるまちづくりを 	15 陸の豊かさも守ろう 	2026年4月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
4	津軽みらい	①地域農業教育の充実に ②園地の被害状況を確認 ③尾上水稻生産組織連絡協議会研修会	4 質の高い教育をみんなに 	13 気候変動に具体的な対策を 		2026年4月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
5	十和田おいらせ	①雌牛の部に小笠原さん、去勢牛の部に下久保さんがチャンピオン賞 ②「ももしいちご」地域の思い乗せ出荷	12 つくる責任 つかう責任 	17 パートナリプで目標を達成しよう 		2026年4月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
6	ゆうき青森	①にんにく栽培講習会 ②女性部野辺地支部 手芸講習会	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	12 つくる責任 つかう責任 	2026年4月号
		農業者の所得増大 地域の活性化				
7	おいらせ	①本店：年金友の会総会開催 ②支店：年金友の会総会開催	3 すべての人に健康と福祉を 	8 働きがいも経済成長も 		2026年4月号
		地域の活性化				
8	八戸	①野菜総合部会第17回通常総代会 ②ながいも 次年度作付けに向けて ③共済代理店実績検討会および情報交換会	2 飢餓をゼロに 	4 質の高い教育をみんなに 	11 住み続けられるまちづくりを 	2026年4月号
		農業者の所得増大 地域の活性化				
9	ごしょつがる	①品種シール販売 ②新採用職員の研修受け入れ ③優績L A表彰	4 質の高い教育をみんなに 	8 働きがいも経済成長も 	12 つくる責任 つかう責任 	2026年5月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				

ページ	J A名	自己改革・SDGsの活動・取り組みの名称	関連するSDGs目標			広報誌掲載号
10	つがる弘前	①令和7年度店舗美粧化コンテスト 3年連続最優秀賞 岩木支店 ②「かあさんの店」移転完了 ③「家計応援セール」実施 ④「はれわたり」宣伝販売活動	2 飢餓をゼロに 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任 	2026年5月号
		地域の活性化 農業者の所得増大				
11	相馬村	①ライスロマンクラブ肥料配布 ②日本原燃 援農 ③花と緑の市 開催！！	8 働きがいも 経済成長も 	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 	17 パートナースhipで 目標を達成しよう 	2026年5月号
		農業生産の拡大 地域の活性化				
12	津軽みらい	①各地区で苗販売会 ②子ども食堂へ食材提供	2 飢餓をゼロに 	15 陸の豊かさも 守ろう 		2026年5月号
		農業生産の拡大 地域の活性化				
13	十和田おいらせ	①常勤理事らが農家を督励巡回 J Aの 販売戦略など説明 ②ナガイモ収穫急ピッチ ③ピーマン苗の鉢上げ盛ん	1 貧困を なくそう 	8 働きがいも 経済成長も 	12 つくる責任 つかう責任 	2026年5月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
14	ゆうき青森	①トマト部会 今年初めての栽培講習会 ②水稻栽培講習会 六ヶ所村 ③全農職員新人研修 受け入れ	2 飢餓をゼロに 	4 質の高い教育を みんなに 	12 つくる責任 つかう責任 	2026年5月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
15	おいらせ	①やさい推進委員会視察研修 ②労組を中心に春のクリーン作戦	4 質の高い教育を みんなに 	8 働きがいも 経済成長も 	11 住み続けられる まちづくりを 	2026年5月号
		農業者の所得増大 地域の活性化				
16	八戸	①にんにく 病害虫対策しっかりと ②ピーマン 定植準備しっかりと ③水稻講習会開催	1 貧困を なくそう 	2 飢餓をゼロに 	4 質の高い教育を みんなに 	2026年5月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
17	ごしょつがる	①年7回のスクール開校 ②キュウリ湿度保持促す ③交通ルールを学ぼう	4 質の高い教育を みんなに 	11 住み続けられる まちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任 	2026年6月号
		地域の活性化 農業者の所得増大				
18	つがる弘前	①J Aつがる弘前にキャラクター新登場 ②機能性表示食品「ひろまる」販売 ③J Aつがる弘前りんご J Aつがる弘前米 店頭販売	2 飢餓をゼロに 	11 住み続けられる まちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任 	2026年6月号
		地域の活性化 農業者の所得増大				

ページ	J A名	自己改革・SDGsの活動・取り組みの名称	関連するSDGs目標			広報誌掲載号
19	相馬村	①花粉開葯所盛況 ②ライスロマンクラブ本格始動！！ ③ネパール技能生リング学習	4 質の高い教育をみんなに 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	12 つくる責任 つかう責任 	2026年6月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
20	津軽みらい	①各地区青年部員が食育活動 ②青空教室が開催	4 質の高い教育をみんなに 			2026年6月号
		地域の活性化 農業者の所得増大				
21	十和田おいらせ	①町最大イベント 菜の花フェスで特産PR ②インドネシアから技能実習生6人が仲間入り ③盛り上がるマッドフラッグ！ 泥まみれで水田ヘダイブ ④泥に足を取られながら田植えを楽しむ児童	1 貧困をなくそう 	4 質の高い教育をみんなに 	10 人や国の不平等をなくそう 	2026年6月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
22	ゆうき青森	①天間林小3年生 アピオス植え付け ②子牛管理品評会 生産・育成技術向上を目指す ③ニンニク種子ウイルス検査	2 飢餓をゼロに 	4 質の高い教育をみんなに 	12 つくる責任 つかう責任 	2026年6月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
23	おいらせ	①病害虫対策の呼び掛け にんにく講習会 ②ハウスの温度管理と水管理の徹底 水稻現地講習会	2 飢餓をゼロに 	4 質の高い教育をみんなに 	12 つくる責任 つかう責任 	2026年6月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
24	八戸	①令和7年度青森県東方沖見舞金贈呈 ②令和7年度JA共済優績組合全国表彰 ③令和8年度JA共済事業推進大会	11 住み続けられるまちづくりを 			2026年6月号
		地域の活性化				
25	JAさがえ西村山 (山形県)	リング輸出を大幅アップ 台湾中心に1億円突破 選別施設の集約が転機に	8 働きがいも経済成長も 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任 	JA全中HPより引用
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
26	JA香川県 (香川県)	准組合員の視点を経営の力に 「パートナーズクラブ」で組織を活性化	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	12 つくる責任 つかう責任 	JA全中HPより引用
		地域の活性化 農業者の所得増大				

3月23日

農業ふれあい教室で 優秀賞

つがる市立瑞穂小学校で実施した農業ふれあい教室に参加した5年生児童6人が制作したかべ新聞が、コンクールで優秀賞を受賞しました。

同教室では、JA女性部員とともに田植えや稲刈り、調理実習を行い、農業や食の大切さについて学びました。児童らは体験を通して感じたことや学びを、工夫を凝らして新聞にまとめました。

受賞を受け、女性部の木村孝子副部長が同校を訪れ、賞状やメダル、副賞を児童に手渡しました。児童からは喜びの声が上がり、教室は笑顔に包まれました。



農業体験の学びをまとめたかべ新聞



優秀賞を喜ぶ5年生児童と木村副部長㊦

3月25日

乾田直播栽培の 理解深める

水稻部会は、乾田直播栽培の導入拡大と安定生産の確立を目的に勉強会を開催し、26人が参加しました。昨年7月の現地検討会、10月の生産経過を振り返る勉強会に続き、今回で3回目となります。

7月の現地検討会では、実際の圃場で生育状況を確認しながら、播種後の管理や雑草対策などについて栽培技術の理解を深めました。10月の勉強会では、生育経過を振り返り、課題や改善点を共有しました。

今回の勉強会では、乾田直播栽培における安定生産に向けた栽培のポイントに加え、推奨される肥料や農薬について紹介し、さらなる技術の定着を図りました。県内では乾田直播栽培が2021年以降、急激に増加しており、2025年度の西北地域の作付け面積は816畧と県内で最も多くなっています。省力化やコスト削減が期待される技術として、今後のさらなる普及が見込まれています。



乾田直播栽培のポイントを学ぶ参加者

3月29日

大雪被害のハウス視察

今冬の大雪で被害を受けた花き農家のハウスを視察するため、自民党の木村次郎衆議院議員や県議会議員らが29日、五所川原市内の農家を訪れました。JAの山本康樹組合長や葛西光昭常務らも同行し、被害状況や今後の支援について意見交換しました。JA管内では、ハウス56棟に被害が出ています。

視察先の花き農家では、21棟あるハウスのうち7棟に倒壊や骨組みの変形などがあり、被害を受けたハウスでは、今年の栽培が見通せない状況です。

ハウスの撤去や再建には多大な費用を要するため、「これを機に作付けをやめる」と語る生産者もおり、産地維持が懸念されています。県では再建費用を補助する一方、撤去だけでは対象外となること、また、自治体による支援の差も課題として挙がりました。

木村議員は支援の必要性を強調。山本組合長は「営農意欲の低下が危ぶまれる。関係機関には一層の支援をお願いしたい。JAとしても、農家に寄り添いながらできる限りの支援に取り組んでいく」と話しました。



被害を受けたハウスを視察し、意見を交わす木村議員㊦ら

2
24

中弘南黒地区農協青年部交流会開催

中弘南黒地区農協青年部連絡協議会は弘前パークホテルで交流会を開催し、JA津軽みらい、JA相馬村、当JAの青年部員53人が参加しました。



当JAの資産形成専任アドバイザーを務める秋吉哲さんを講師に迎え「知っておきたい非課税制度」と題した講演を行い、資産形成について学習しました。

講演後の交流会では、それぞれ支部の抱える課題や取り組みなどの情報共有を行いながら親睦を深めました。



女性部

2
9

フレッシュ部会研修会開催

女性部フレッシュ部会は本店会議室において、一般社団法人家の光協会が発行する月刊誌「家の光」を活用した研修会を開催しました。成田縫子部長を講師に迎え、同誌4月号に掲載の衣服の袖口を水濡れ



や汚れから守るショートアームカバーを製作しました。

参加した部員は成田部長のサポートを受け、初心者でも縫いやすく肌当たりの良いダブルガーゼを使用し、慣れない手縫いに苦戦しながらも無事に完成させ「台所での洗い物作業の時は、袖口が濡れるので、アームカバーを使用することで作業がはかどりそう」と話しました。



フェイスブック、インスタグラムでは、各地区で開催されているセミナーや講習会、各種イベント情報など、タイムリーに情報を発信しています。ぜひ、ご覧ください。



フェイスブック



インスタグラム





再生できるりんご樹は
この木柱で回復して欲しい…



りんご樹再生のために…



3月18日、育苗センター敷地内で購買課は、予約注文を受けたりりんご樹再生のための丸太（木柱）を搬入しました。2年連続の大雪でりんご減収防止対策として行われた試みです。届いた木柱を見て大場勉強組合長は「雪解けが進むと枝折れや幹折れなどの被害がはつきり見えてくる。この木柱で再生できるりんご樹は少しでも回復に努めてもらいたい」と話しました。

3月24、25日の2日間で予約頂いた丸太木柱の引渡しが行われました。引取りに訪れた坂本地区の田中清一さんは「今年の大雪で、1週間以上雪下ろしに行きたくても畑へ行けなかった。雪解けが進むにつれてりんごの樹が10本以上折れたり欠けたりしているのが見えて愕然とした。この木柱で補修してりんごの収量を維持していきたい」と話してくれた。2日間で約3000本の引取があり、木柱の在庫がある限り、まだ注文は受けています。



田澤女性部長より
賞状を受け取る

3月24日、相馬小学校において「農業ふれあい教室」かべ新聞「コンクール」の表彰式が行われました。相馬小学校の3年生9名は、1年間を通じて取り組んだリンゴ学習についての感想文とリンゴかるたを作成し、コンクールに応募しました。その結果「優秀賞」を受賞し、田澤真由美女性部長から表彰状と記念メダル、さらに副賞としてはれわたたり2キロが生徒一人一人に贈呈されました。立派な額縁に入った表彰状を受け取った大場聖城くんは「りんご学習もかべ新聞も頑張った良かったです。この学習は楽しかったです」と感想を述べてくれました。表彰式は終始笑顔に包まれ、今年度の農業ふれあい教室は無事に終了しました。

りんご学習贈呈式



肥料の引取に訪れた会員

3月30日と31日に、飛馬共防会員による肥料の受け取りが湯口支所グリーンプラザで行われ、47名の会員が予約した肥料を受け取るために訪れていました。消雪が進んでいる園地が多く、開花前に肥料散布を終わらせようとしている会員もいました。

引取に訪れた会員たちは「今年はたくさんの雪が積もったが、雪解けが早い。まだ畑の小屋に行けない場所もあるが、肥料の準備が始まるというよい農作業が本格化する気がする」と、これからの農作業に向けての準備を整えています。

飛馬共防肥料配布



地域農業教育の充実に



大川記念農業教育基金協会（佐藤龍海会長）は3月24日、平川市役所で農業等図書費寄贈を行いました。

同協会は、旧ＪＡ津軽平賀の組合長として長年活動してきた故・大川豊氏が、地域農業の活性化のため、今後の農業後継者やＪＡ役職員の教育事業に活用してほしいと自身の退任慰労金を寄贈したことをきっかけに発足しました。

佐藤会長が目録を工藤貴弘市長に渡し、工藤市長は感謝状を贈るとともに、長年の寄贈に感謝の意を表しました。



目録を受取った工藤市長（左）



園地の被害を確認する奈良組合長（右）と吹田定義営農購買担当常務（左）

園地の被害状況を確認



当ＪＡは3月17日、雪によるりんご園地の被害状況を確認するための巡回を行いました。1月に豪雪対策本部を本店に設置しており、今回の巡回は被害状況などを把握し、雪害に対する支援策を講じることが目的です。

この日は常勤役員と営農課の職員が、黒石地区を中心に被害があった管内の園地を巡回。雪の重みによる枝折れや、幹が裂ける被害が多く見られました。

奈良寧組合長は「今後も被害調査を行い、生産者が安心して農業を続けられるよう支援の充実を進めていく」と話しました。

尾上水稻生産組織連絡協議会研修会



尾上水稻生産組織連絡協議会（佐藤晃一会長）は3月30日、平川市のさるか荘で研修会を開き、生産者約20人が出席しました。

研修会では尾上グリーンセンターの営農指導員が、「10年後の水田農業意向調査票集計結果について」「平川市関係機関連絡会議での協議内容の情報共有について」「尾上地区管内の基盤整備事業の動向について」の3項目を説明し、現在の地域農業の課題や農地の集約化、基盤整備の強化などを確認しました。



職員の説明を聞く生産者



地域的话题を紹介します

3/6 12月 子牛管理共進会

雌牛の部に小笠原さん、去勢牛の部に下久保さんがチャンピオン賞



▲雌牛の部チャンピオンの「みさえ」と小笠原さん



▲去勢牛の部チャンピオンの「蛍」と下久保さん

当JAと十和田市黒毛和種改良組合は、令和7年度最後となる子牛管理共進会を開きました。審査の結果、雌牛の部で小笠原吉蔵さん出品の「みさえ」、去勢牛の部で下久保賢直さん出品の「蛍」がチャンピオン賞に輝きました。

この日は市内の繁殖農家19戸が育てた月齢12カ月未満の雌牛24頭、去勢牛18頭が出品。資質や品位、体形、月齢に見合った発育状況などを審査しました。

小笠原さんは牛を管理して50年。「再度チャンピオン賞を取りたいと目指していたのでとてもうれしい。飼料の高止まりなど苦難は多いが、できるだけ長く良い牛を生産し続けたい」と喜んでいました。

○チャンピオン賞

▷雌牛の部＝小笠原吉蔵

▷去勢牛の部＝下久保賢直

○優秀賞1席

▷雌牛の部＝折田勝男 ▷去勢牛の部＝中野渡成人

○優秀賞

▷雌牛の部＝樋口晃彦、今泉成一、川上新一、久保英美、坂本秀美

▷去勢牛の部＝下久保賢直、前川原弘文

○優良賞

▷雌牛の部＝川上新一、豊川孝将、農工園、沢目喜代人、中野渡成人、前川原弘文、野崎透

▷去勢牛の部＝佐々木基、小笠原通則栄、坂本秀美、中野渡成人

—敬称略

3/9 17月 地域活性化

「ももいしいちご」地域の思い乗せ出荷

ももいし支店管内で生食用イチゴ「ももいしいちご」の出荷が始まっています。鮮やかな紅色と甘さが特長です。

同地域は40～50年前、生産者が100戸を超すイチゴ産地でした。しかし、高齢化によって徐々に縮小。2011年の東日本大震災が追い打ちをかけました。海に近いハウスは津波により倒壊。収穫期のイチゴががれきに埋まり、塩害で作付けできなくなったほ場もありました。

イチゴ栽培50年目を迎える川口勝子さんは「肩を落とす農家を救ったのはJA職員や地域の農家仲間だった」と当時を振り返ります。人が集まり、がれきを撤去する様子を見て、協同の価値やJAの役割を強く実感したといいます。

「思い入れのあるももいしいちごは私の一部。再建を断念した人たちの分まで、できる限り作り続けていきたい」と話しています。



▲収穫作業に精をだす川口さん

3/10 にんにく栽培講習会



講師の話に耳をかたむける生産者ら

J A ゆうき青森野菜振興会にんにく部会は、七戸町の七戸町中央公民館でにんにく栽培講習会を開催した。

栽培講習会には約50名の生産者が参加。上北農林水産事務所農業普及振興室の及川健さんを講師に招いた。

栽培講習会の冒頭では、甲地武仁にんにく部会長から1月に行われた販売要請の報告がされた。その後、令和7年産の作柄と問題点を踏まえて令和8年産への対応として、暖冬年の施肥管理や病虫害対策、欠株・生育異常の原因などについて説明された。

3/10 女性部野辺地支部 手芸講習会



協力しながら作業を進める部員ら

J A ゆうき青森女性部野辺地支部は、野辺地支店で手芸講習会を開き、16人の部員が参加した。今回は、友禅和紙を使った持ち手付き収納箱作りに挑戦した。

部員たちは事前を選んだ色とりどりの和紙を型に沿って丁寧にカット。組み立てパーツをセロテープで固定し、順番に貼り付けながら作業を進めた。手順を確認し合いながら慎重に作業する姿が見られ、少し難しい箇所では「こうやるとやりやすいよ」と声を掛け合ったりする場面もあった。教室には笑い声が時折響き、和やかな雰囲気の中で作業が進められた。

完成した収納箱は、それぞれ個性豊かで美しい仕上がりに。部員は「作業が難しいところもあったが、協力して完成できた」「自分の作品がこんなに綺麗にできて満足」と笑顔を見せ、手作りの楽しさと仲間との交流を存分に味わった。

本店 年金友の会総会開催

2月14日に、きざん三沢で本店年金友の会通常総会が開催され、114名の会員が出席しました。今回は初の試みとして、総会に先立ち講演会を開催しました。講師には、三沢警察署の担当者をお招きし、「特殊詐欺被害に遭わないために」と題してご講演いただきました。講演では、実際に発生している特殊詐欺の手口やその対策について、具体例を交えながら分かりやすくご説明いただき、会員は真剣な表情で耳を傾けていました。

その後の通常総会では、令和7年度活動報告及び収支決算書の承認をはじめ、5議案について審議が行われ、すべてが原案通り承認されました。令和8年度の親睦旅行の行き先については、参加会員による多数決の結果、「庄内・男鹿コース」に決定しました。旅行は2泊3日の日程で、最上川の船下りをはじめ各地を巡り、日本の宿100選に40年連続入賞の老舗旅館「萬国屋」での宿泊も予定しております。会員同士の親睦をより一層深めていただける機会となりますので、ぜひ多くのご参加をお待ちしております。



支店 年金友の会総会開催

2月14日に、きざん三沢で、第25回JAおいらせ六戸支店年金友の会通常総会が開催され、97人の会員が出席しました。長年、会長を務められた伊沢義隆さんが退任し、佐々木定次郎さんが新たに会長に就任しました。総会では、令和7年度活動報告及び収支報告について、令和8年度活動計画及び収支計画について（案）が審議され、すべての原案通り承認されました。

総会後の、懇親会では、おいしいごはんやお酒を楽しみ、余興では会員の方々によるカラオケやゲストとして役員の佐々木定次郎さん率いる、新舞踊「皐月会と仲間たち」を招いて踊りを披露していただきました。最後には全員で六戸音頭を踊り、交流を深めました。



野菜総合部会第17回通常総代会

野菜総合部会は3月10日、野菜総合部会通常総代会を八戸プラザホテルアーバンホールで開催し、部会員、市場関係者、JA職員など92人が参加しました。

堰合繁部会長は「干ばつ・猛暑・集中豪雨により計画の収量が未達成となりました。異常気象が普通である状況のなか、市場の皆さまのご協力により計画に近い販売金額となりました。再生産が厳しくなってきたおり、部会員も減少し厳しい状態になっています。農協、市場関係機関が一体となつて、再生産価格実現に向けてご協力をお願いします」とあいさつしました。



▲ あいさつをする堰合部会長

また、若林政秀組合長は「異常気象と資材高騰という厳しい環境のなか、工夫して農産物を作っていることに敬意を表します。農協



▲ 慎重に協議する参加者

としても、バックアップをきちんと行っていきたい。ぜひ、総代の皆さまから、周囲の農家へ声掛けいただき、ぜひ出荷をお願いしたいと思います。農協としても、指導事業を強化し、生産者の拡大につなげていきたい」と述べました。議長はまべち支部の佐々木一雄さんが務め、令和7年度事業報告、収支決算、令和8年度事業計画など3つの議案について協議を行い、満場一致で承認されました。

トピックス



▲ あいさつをする下村常務

共済課は3月6日、八戸プラザホテルアーバンホールで令和7年度JA八戸自動車・自賠責共済代理店実績検討会および情報交換会を開き、共済代理店、共済連青森県本部、JA役職員22人が参加しました。

下村正男金融・共済担当常務は「共済代理店の皆さまにおいても、地域に深く根ざし、地域社会の発展や活性化に貢献する重要な存在であると認識しています。日々の業務において直面するさまざまな事例を共有し、今後の課題や目標について、意見や提案を交わし、ともに考え成長していきます」とあいさつ。

実績検討会では、情勢報告が行われたほか、2024年度JA八戸自動車・自賠責共済代理店契約拡大キャンペーンの結果報告、2025年度の実績報告を行いました。

情報交換会では、出席者が意見を交わし、情報を共有しました。

共済代理店実績検討会および情報交換会



▲ 説明に耳を傾ける参加者

ながいも専門部は3月3日、管内4ヵ所ではながいも栽培講習会を行い、五戸営農センター（東部）で行った講習会では17人が参加しました。

農業普及振興室の木下貴之主幹が講師を務めました。令和7年産の作柄と気象経過を振り返りつつ、これからの春掘り作業、種芋の選別や植え付け時期などについて説明しました。また、種芋を切り芋として利用する際、腐敗しないよう注意を促しました。講師は「今年も気温が高めで推移することが予想されます。異常気象も近年発生しているため、土壌診断や排水対策を行った土づくりを心がけてほしい」と呼びかけました。

さらに、五戸営農センターの荻沢一雄係長は、参加者へ、加工品も含めた農協への全量出荷をお願いしました。

ながいも 次年度作付けに向けて

4月10日

品種シール販売

小学生を中心に流行しているシール帳ブームに合わせ、リンゴの品種名をデザインした「品種シール」の販売を始めました。主力品種「ふじ」とJA公式キャラクター「えーるちゃん」のシールをセットにし、農産物直売所「まるっと新鮮館」で限定販売しています。

近年、キャラクターなどのシールを集めて友人同士で交換する「シール帳」が人気を集め、この「集める楽しさ」を切り口に、リンゴの魅力発信と来店促進を図ろうと企画しました。品種シールは、本来リンゴの品種を表示するため、出荷時にリンゴに貼付しているもので、余剰在庫の有効利用にもつなげています。

販売は、同直売所で毎月開催するイベントに合わせてスタート。1セット110円で販売し、今後は来店客の反応を見ながら、複数品種での展開も検討しています。

担当者は「シールをきっかけに来店してもらい、直売所にぎわいづくりにつなげたい」と話しています。



リンゴの品種シールをPRする職員

4月17日

新採用職員の研修受け入れ

4月6日～17日の間の10日間、JA全農あおもりの新規採用職員の現地研修を受け入れました。研修は、農業の現場やJAの役割、協同組合の意義について理解を深めることを目的に実施したものです。入会したばかりの職員3人は、本支店や各施設を回り、金融・共済・購買・販売・指導業務を体験しながら、JAの総合事業の仕組みを学びました。

4月10日と13日には営農指導員に同行し、水稲やリンゴ、野菜など各生産者を訪問。農業機械や春作業の様子を見学し、農業特有の面積の考え方など現場ならではの知識を学びました。さらに、水稲の播種作業も体験し、作業の流れやポイントについて説明を受け、研修生らはメモを取りながら熱心に耳を傾けていました。

研修生の花田陽菜さんは「農業の大変さを実感するとともに、生産者に寄り添い支援することのやりがいを感じた。今回の経験を今後の業務に生かしていきたい」と話しました。



水稲播種作業について説明を受ける研修生ら

4月23日

優績しA表彰

青森市のホテル青森で、県内のJAが一同に会する「令和8年度JA共済事業推進大会」が開催され、当JAの令和7年度の取り組みが評価され、各種表彰を受けました。個人表彰では、LA優績顕彰シルバークラスに共済課の堀内美和係長が選ばれました。また、団体表彰では「自動車共済クルマスター占有率表彰（伸長率の部）」において最優秀組合を受賞しました。

これらの受賞は、組合員・利用者の方々の皆さまのご理解とご協力のおかげです。今後とも安心と信頼の共済事業の推進に努めてまいります。



受賞した堀内係長（上段左）



記念品を受け取る
山本組合長㊟と木村常務㊟

3
9令和7年度店舗美化コンテスト
3年連続最優秀賞 岩木支店

店舗環境の向上を図り、お客さまが来店しやすい店舗づくりを目指すため、店舗美化化コンテストを毎年開催しています。窓口、ロビー全体、ディスプレイ、接客対応などの審査項目を定め、金融委員と金融部職員が不定期に店舗を巡回して審査しています。

令和7年度の最優秀賞には、岩木支店が選ばれました。岩木支店は3年連続の受賞となります。富士支店長は「来店してくれた組合員やお客さまの目線で、店内のディスプレイ、椅子やパンフレットの配置を決めている。支店職員全員が清掃、整理整頓、タイムリーなお知らせ、季節にあった店舗作りなどを常に心掛けている結果だと思ふ」と話しました。優秀賞には藤崎支店、審査員特別賞には弘前東支店が選ばれました。

今後も、組合員、地域のみなさまに愛される支店づくりに努めます。



最優秀賞 岩木支店

4
~

「かあさんの店」移転完了

農産物直売所「かあさんの店」が本店1階ロビーに移転し営業を開始しました。

会員が育てたりんごや野菜、JAオリジナル加工品、お米、Aコープ商品などを取り揃えておりますので、ぜひご利用ください。

営業時間は午前9時から午後4時。定休日は土曜、日曜、祝日となっております。

2/21~
3/末

「家計応援セール」実施

日頃の感謝の気持ちを込めて、農産物直売所4店舗において、毎週土日限定の「家計応援セール」を開催しました。県産米「はれわたり」とJAつがる弘前オリジナル米を大特価で販売しました。

21日、「はれわたり」10キロを購入したお客さまは「JAの直売所だと品質も安心だし、しかも、こんなに安く購入できてとてもありがたい」「お米は毎日食べるので本当に助かる。しかも、パッケージが可愛くて元気になる」と話しました。

3
29「はれわたり」
宣伝販売活動

米穀係は、奈良県にある近商ストア近鉄プラザ真美ヶ丘店と高の原店で、県産米「はれわたり」の宣伝販売活動を行いました。

同係の職員は、炊き立ての「はれわたり」の試食を実施しながら、適度な甘みがあり、冷めても美味しい「はれわたり」の特徴を丁寧に伝えました。

試食した買い物客は「しつかりとした甘みを感じておいしい」「青森県はお米のイメージが正直あまりなかったけれど、試食したらおいしくてびっくりした」と感想を話し、「はれわたり」を手にとってくれました。店頭販売を行った同係の職員は「県産米の販路、消費拡大に向け全力で取り組んでいきたい」と意欲を見せました。





役員が手際よく肥料配布しました。

4月16日と17日2日間、ライスロマンクラブの肥料配布が湯口支所グリーンプラザ前と相馬支所で行われました。

初日は、湯口支所で東部班の肥料の引渡しが行われ、組合員へ面積に応じた数量の肥料が受け渡されました。ライスロマン役員は「〇さん、4袋」と声を掛け、確認しながら作業をすすめました。ライスロマンクラブ副会長の三浦豊さんは「昨年より全ての地域で春一番という肥料に変わったので、引き続きより多い数量の収穫を目指していきたい」と意気込みを述べました。

ライスロマンクラブ 肥料配布



剪定した枝集めをしました。

4月22日、青森市内から4名、六ヶ所方面から3名の日本原燃の職員計7名による援農活動が実施されました。

原燃の職員は毎年相馬管内の園地で、収穫のお手伝いをしていましたが、昨年はクマの出没による安全面を考慮して行われませんでした。

今回は、桐の木沢地区の嶋口千速さんのリンゴ園地で剪定した枝の片付けを行いました。参加した職員は皆、クマ鈴と撃退スプレーを常備して作業に取り組んでいました。園主の嶋口さんは、「またこういう援農があれば引き受けます」と述べ、作業に参加した職員からも「今年は収穫に來れたら…」と期待を込めて話していました。

日本原燃 援農



4月29日から5月10日まで、JA湯口支所前特設会場において、花と緑の市が開催されました。初日は天候にも恵まれ、開店前から行列ができるほど、多くのお客様が訪れていました。10年以上購入している方は「この苗は、丈夫で毎年うまく育つので、必ず初日に買いに来ている。」と力グいっぱいに選んでいました。「いつものおばさんが見当たらないけど、今年はいないの？ 毎年話すが楽しみなんだけど…」と顔なじみのスタッフを探している常連客の姿が見受けられました。このイベントを心待ちにしている方々の多さに感銘を受けました。

花と緑の市 開催!!



花から野菜や果物苗まで
買い求めるお客様に賑わっていました。



各地区で苗販売会



4月下旬から5月上旬、各地区で野菜苗販売会が行われました。各地区のグリーンセンターが毎年大型連休の時期に開いており、トマトやきゅうり、なす、かぼちゃ、すいかなど野菜苗を中心に販売しています。今年は晴天に恵まれ、各地区とも大盛況となりました。



田舎館地区



平賀地区



黒石地区



苗購入者(平賀地区にて)



石川地区



尾上地区

子ども食堂へ食材提供



4月21日と22日、社会福祉法人睦会と特定非営利活動法人くろいしを本店に招き、1箱20kg規格のJAきたみらい産玉ねぎを3箱ずつ、各団体へ提供しました。提供した食材は孤食の解消や地域交流の場として機能している「子ども食堂」に使用されます。

当JAでは地域貢献として、「組合員組織等による仲間作りと食農教育活動などを通じて、地域社会へ貢献します」を基本方針として掲げ、地域に根差した活動をしています。

提供先の両団体は「ご提供いただきありがとうございます。子どもたちのために、有効に活用させていただきます」と話しました。



社会福祉法人 睦会(中央左)へ食材提供する奈良組合長(中央右)と営農課職員



特定非営利活動法人くろいし(右)へ食材提供する吹田常務(左)



▲生産農家の要望を聞く畠山組合長(左)

4/7

12月

常勤理事らが農家を督励巡回 JAの販売戦略など説明

畠山一男組合長ら常勤理事が、ナガイモの春掘り作業が本格化しているほ場を督励巡回しました。巡回にあわせて、生産農家の要望や悩み、作業の進捗状況や作柄を確認したほか、JAの販売戦略などについて説明しました。

生産農家からは「近年、傷や折れに悩んでいたため、土付き加工ナガイモの買取りは助かる」「個選の取り扱いもしてほしい」などの声が聞かれました。畠山組合長は「販売環境や生産状況に見合った多様な集荷・販売で農家の手取り確保につなげていく」と話しています。

4/8



ナガイモ収穫急ピッチ

3月下旬からナガイモの春掘り作業が急ピッチで行われました。地温が高まると品質低下につながるため、JAでは4月下旬までに入庫を済ませよう農家に呼びかけました。作柄は夏季の干ばつと猛暑の影響で、ほ場によって細長い傾向であるものの、越冬してうま味が凝縮され、コクのある味わいに仕上がりました。

十和田市の須田山純一さんはナガイモをキズつけないようにトラクターで土を掘り起こし、スチールコンテナに並べる作業を繰り返しました。3月下旬から作業を始め、4月中旬までに20アール分を収穫。

須田山さんは「丹精込めて栽培している。角切りにしてうめ漬けにすると、さっぱり食べられるのでこれからの季節におすすめ」と話していました。

十和田やさいセンターでは4月中旬から春掘りナガイモの市場出荷が始まっています。



▲ナガイモの春掘り作業をする須田山さん

4/8



ピーマン苗の鉢上げ盛ん

当JA管内で3月下旬から4月上旬までピーマン苗の鉢上げが盛んに行われました。ハウス内で育苗し、畑への定植は5月上旬から始まり、収穫は6月中旬から10月下旬までの予定です。

藤坂支店管内の鎗田南美子さんは4月上旬からハウス内で苗の鉢上げ作業を繰り返していました。ピーマン栽培2年目で、今年は去年の倍の700本を植える計画。「県内1番の品質と出荷数を目指したい」と意欲を燃やしています。

JAでは「朝晩の気温低下や日中の気温の上昇変化に注意し、こまめな温度管理や灌水(かんすい)を行い丈夫な苗にしていきましょう」と呼び掛けました。



▲苗の鉢上げ作業をする生産農家の鎗田さん

4/14

トマト部会 今年初めての栽培講習会

12 つくろ農担
つかろ農担



管理のポイントについて説明する小出光さん

J A ゆうき青森野菜振興会トマト部会は14日、天間林地区の西野盛孝トマト部会長のハウスで、今年初めての栽培講習会を開いた。上北地域県民局農業普及振興室の小出光さんを講師に招き、鉢上げから定植までの管理について学んだ。

トマト生産者15人が講習会に参加。ハウス内の温度が12度以下にならないように温度管理を徹底することや、乱形果にならないように窒素過多に注意することを確認した。

また葉や果実を食害するトマトキバガについて小出さんは、「農薬の適期散布を実施し、予防に努めてほしい」と呼び掛けた。

4/16

水稲栽培講習会 六ヶ所村

2 農薬を
ゼロに

12 つくろ農担
つかろ農担



講習会の様子

六ヶ所村技術者連絡協議会は16日、水稲栽培講習会を開催した。農業普及振興室三沢分室の杉山真一技師を講師に迎え、適切な育苗管理について学んだ。

講習会には、生産者ら15名が参加。4月中の気温が高くなってきていることから葉齢に応じた適切な温度・水管理に注意するほか、農作業事故を防止するため安全管理の徹底を呼び掛けた。

参加者は、適切な農薬散布の方法や使用時期について質問し、より良い栽培管理に向けて知識を深めた。

4/17

全農職員新人研修 受け入れ

4 農のぬい育を
みんなに



ナガイモをスチールに詰める全農職員ら

J A ゆうき青森は6日から17日の間、全国農業協同組合連合会の新採用職員研修として、新人5名を受け入れた。5名は2週間にわたり、J A の施設や業務を見学し、生産者のもとで農作業を体験した。

農作業体験では、東北町の乙部大作さんと土橋重幸さんの圃場でナガイモ掘りに挑戦。慣れない動きに苦戦しながらも、アドバイスを受けながら農作業に汗を流した。

このほか、ナガイモの選果作業体験や種芋の選別作用などの業務に従事。5名は今後の仕事に対する気持ちを新たに、研修を無事に終了した。



やさい推進委員会視察研修

3月4日から6日、やさい推進委員会本部役員は松山市を訪問し、市場販売要請と視察研修を行いました。

1日目に、井関農機本社でトラクターの生産工程を見学しました。トラクターは主に海外輸出向けをメインに生産を行っており、生産ラインに興味津々な様子でした。

2日目には、丸温松山中央青果株式会社を訪問しました。始めに売り場を見学してから販売対策会議を行い、産地の現状と他産地の状況共有、今後の見通しについて話し合いました。会議では、今後の販売方針など互いの要望を共有し合い、有意義な時間となりました。

3日目には、YOKOZAKI 製作所を視察しました。選別を得意とする会社で様々な野菜の選別機を出荷しており、県内にも馬鈴薯やいちご選別機の依頼が多いという話がありました。

やさい推進委員会は、今後も市場販売要請や視察研修を行っていく予定です。



労組を中心に春のクリーン作戦

青森県農業協同組合労働組合おいらせ分会は4月14日に六戸支店、17日に本店で業務終了後にJA施設周辺のゴミ拾いをするクリーン作戦を実施しました。地域貢献活動の一環として春・秋の年2回行っており、10年以上前から継続して取り組んでいます。

分会以外に部課長も加わり、本店約60人、支店約30人が駐車場や倉庫周辺のゴミ拾いをしました。

同分会の浪岡健治委員長は「新年度忙しい中での活動でありましたが、皆さんの御協力により実施出来たことに感謝いたします。地域の皆さんには農協へ来組する際、気持ちよく利用してもらえるよう今後も続けていきたいです」と話しました。



クリーン作戦（本店）



クリーン作戦（六戸支店）

にんにく 病害虫対策しっかりと



▲ 説明に耳を傾ける参加者

にんにく専門部は4月9日、14日の2日間、管内14ヶ所で栽培講習会を行いました。このうち、福地野菜集出荷場では26人が参加しました。

農業普及振興室三戸分室の大和山真一総括主幹が講師を務め、生育状況と今後の管理作業について説明しました。4月6日に行った生育調査では、さび病の発生がわずかにみられたが、生育は概ね順調であると報告しました。講師は「排水対策、茎葉の傷みには葉面散布剤を活用し、各自圃場の状況を確認し管理してください」と呼びかけました。

ピーマン 定植準備しっかりと



ピーマン専門部五戸支部は4月16日、管内3ヶ所でピーマン定植講習会を行いました。

農業普及振興室の吉田理見技師を講師に招き、圃場の準備から定植までの流れや注意点を説明しました。さらに、昨年6月以降の乾燥の影響で生育が停滞し、尻腐れ果や赤果が全体的に多発したことから、通路にわらや防草シートを敷き乾燥を防ぐほか、1株あたり500mlを目安にかん水を行うよう促しました。また、カメムシ類が多発する場合は、登録のある殺虫剤のうち、RACコードが異なる殺虫剤をローテーション散布するよう説明しました。



▲ 注意点を説明する講師

水稻講習会開催



▲ 管理方法を説明する講師

営農経済部は4月22日から24日にかけて、管内13ヶ所で水稻講習会を行いました。このうち、23日に五戸営農経済センター（東部）で行った講習会に15人が参加しました。

農業普及振興室の太田富広技師が講師を務め、育苗から移植までの管理方法について説明したほか、苗立枯病やばか苗病等の病害対策について話しました。

講師は「苗づくりは苗長14cm、3.5葉苗でがっちりした苗にすることが目標です。かん水は苗箱の乾燥状態に応じて判断し、温度が上昇する前の朝方に行うようにしてください」と呼びかけました。さらに、代かきは除草剤の効果を安定させるため、田面の高低差が生じないように均平に行うよう説明しました。



5月9日

年7回の スクール開校

親子向けイベント「農業まるごと体験スクール」を開校しました。1回目となる野菜づくり体験には、親子5組20人が参加。農産物直売所「まるっと新鮮館」でミニトマトやピーマンなど好みの苗を購入し、プランターに植え付けました。全7回の農業体験イベントを通じて、食と農の大切さを伝えていきます。



ミニトマトの
苗を植える親子

渋谷種苗店の渋谷耕平さんが講師を務め、苗の植え方や水やりのポイントを説明。参加した親子は、協力しながら土を入れ、苗を植えました。それぞれ持ち帰り、各家庭で収穫まで育てます。参加者は「自分で植えた野菜が育つのが楽しみ」と笑顔で見せました。これまで単発で開催していた田植えや収穫体験などの農業体験イベントを、年間通した「スクール」に再編。農業に対する理解を促し、JAへの親しみを深めてもらいます。

5月12日

キュウリ 湿度保持促す

野菜振興協議会は、五所川原市でキュウリの現地栽培講習会を開きました。今年は乾燥傾向のため、水管理について重点的に説明。通路かん水で、ハウス内の湿度を十分に保つようにアドバイスしました。

講習会は、同協議会の奈良誠祐会長のハウスで開き、生産者8人が参加。キュウリ専門育種メーカー「ときわ研究場」の担当者を講師に招き、定植後の管理や草勢維持のポイントについて学びました。

近年、他産地では高温で芯焼けや葉焼けが起きています。今年も高温が予想されるとして、こまめな水管理と湿度確保を促しました。

管内では今年、生産者16人が1.4畝に作付け。市場では品質や棚持ちの良さが高く評価されています。奈良会長は「今年も頑張って栽培しよう」と述べ、安定生産と出荷拡大を呼びかけました。



キュウリの生育状況を見ながら
説明を聞く生産者

5月16日

交通ルールを 学ぼう

JAつがるにしきたとJA共済連青森と合同で「JA共済アンパンマン交通安全キャラバン」を開催しました。交通ルールを楽しく学び、子どもたちを交通事故から守ることを目的に毎年実施しています。

会場となったつがる市の柏ふるさと交流センターには、午前、午後のステージを合わせて541人の家族連れが来場。アンパンマンたちと一緒に、歌や踊りを交えながら横断歩道の渡り方や交通ルールについて学びました。

イベントの最後には握手会も行われ、子どもたちはアンパンマンたちと触れ合いを楽しみ、会場は笑顔に包まれました。



交通ルールを
楽しく学びました！

©やなせたかし
フレーベル館・TMS・NTV



そらねこ

みけた

第7次地域農業振興計画書
中期経営計画書の表紙にも
使用しました。



弘前市出身の漫画家である石塚千尋さんが、当JAのためにキャラクターを描き下ろしました。石塚さんは、「別冊少年マガジン」（講談社）に連載中で、アニメ化もされた「ふらいんぐうーち」の作者としても著名な方です。

キャラクターは、天候を少しだけ操る力がある「そらねこ」と晴天の精霊の幼体で「そらねこ」の相棒として修業中の「みけた」です。「そらねこ」と「みけた」の力で、農作物が順調に育つ天候が続くようにとの願いが込められています。今後は、「そらねこ」と「みけた」とともにJAつがる弘前の知名度、認知度向上に努めていきます。



JAつがる弘前に キャラクター新登場

「弘前さくらまつり」を訪れる観光客にりんごをPR



機能性表示食品 「ひろまる」販売

りんご販売部は、弘前市と合同で機能性表示食品「ひろまる」のPR販売を弘前市役所前で行いました。「ひろまる」は、弘前産りんごのさらなる消費拡大につなげるため、中小玉サイズの主力品種サンふじ（無袋ふじ）を機能性表示食品の地域ブランドとして全国展開しています。

りんごの日常的な消費拡大に向けた取り組みの一つとして、弘前市、JA相馬村、当JAおよびその他各関係機関が連携して取り組んだ、りんご生果の機能性表示食品「ひろまる」のおいしさと機能性を国内外の方々に伝えました。

試食した方々から「今の時期でこんなにシャキシャキなんてすごい！」「青森のりんごは最高」などのお声をいただきました。



JAつがる弘前りんご JAつがる弘前米 店頭販売

弘前支店では、支店前敷地内においてJAつがる弘前りんごやJAつがる弘前米「はれわたたり」、オリジナルのスチューベンジャム、旬の葉物野菜などを販売しています。

弘前さくらまつり期間に合わせ、天内組合長をはじめりんご販売部、経済部職員は店頭に立ち、サンふじやシナノゴールド、はれわたりをPRしました。

天内組合長は「JAつがる弘前のりんごやお米はいかがですか」と声をかけながら、立ち止まった観光客にJAつがる弘前りんごとJAつがる弘前米のおいしさをPRしました。



花粉開薬所盛況

12 2018

今年も農協本所倉庫に花粉開薬所を設置し、多くの生産者が花粉の開薬に訪れていました。

近年、マメコバチの減少がリンゴの結実に影響を及ぼしているため、確実な結実と良品生産を目的とした人工授粉が行われています。農家さんは、王林や金星、世界一などの開花直前（風船状）になった花を摘み取って持参します。その後、薬（やく）採取機を使って花から薬を取り出し、ふるいで余分な花弁などを選別して箱に敷き詰めます。これらを加温した乾燥室で乾燥させた後貯蔵し来年預かった農家さんへと引き渡されます。



リンゴの花を開薬機へ

ライスロマンクラス

本格始動!!

4 2018

4月末からの耕起や代掻きを経て、5月21日からは、いよいよ田植が始まり大忙しな季節がやってきました。初日はあいにくの曇り空となりましたが、東部班から元気よく作業がスタート。その様子を見守っていた花田勇人組合長は、「今年は苗がなかなかの出来栄え。良い秋（収穫期）を迎えられるのではないかと期待しています」と笑顔で意気込みを語ってくれました。



GPS搭載された田植え機で作業効率アップ!

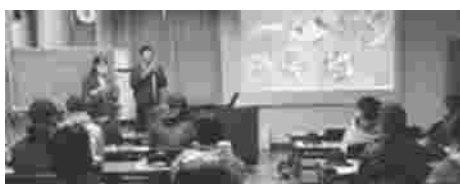


ネパール技能生

リンゴ学習

4 2018

5月1日、ネパールからの技能実習生を対象とした、リンゴの摘花作業の実技研修会が五所地区の園地で開催されました。研修の前半は本所2階の大会議室で行われ、齊藤大貴主任が資料や映像を使って事前講義を実施。通訳を介して詳しい説明が行われました。後半は、指導課職員と一緒に実際の畑へと出向き、実技研修では「ふじ」の摘花作業を行いました。園地での農作業を安全に進めるため、傾斜地における梯子（はしご）の正しい使い方についても熱心に学びました。



摘花を作業してみる参加者たち



各地区青年部員が食育活動

各地区で青年部による食育活動が行われました。5月25日、金田小学校で尾上地区青年部員2人と尾上グリーンセンター指導員1名が苗や米作りに関する授業を行い、その後、実際にバケツに苗を植える苗植え体験を行いました。48人の児童らは苗や米に関する授業を真剣に聞き、その後のバケツへの苗植えでも上手に植えていました。

平賀地区でもみなみ地区青年部員が保育園児を対象に、畑での果実苗植え体験を行ないました。

お米の授業をする青年部員と営農指導員



尾上地区
青年部



園児に苗の植え方を教える青年部員

みなみ地区
青年部



元気にあいさつをする園児



児童に水稻苗の植え方を教える
青年部員



青空教室が開催

各地区で青空教室（生産者に向けて屋外の畑など現地で直接行われる農業技術・栽培管理の講習会）が行われました。

5月26日、平賀りんごパッケージセンターで行われた青空教室では、りんごの病虫害対策の農薬について・雪害に対する補助事業・令和7年の販売状況に関する説明が行われました。その後、りんご畑に移動し、実際に摘果（若い果実の一部を摘み取り、残った果実を高品質に育てるための作業）の講習も行われました。



今後の栽培管理について説明する営農指導員



摘果作業について説明する講師

5/17



町最大イベント 菜の花フェスで特産PR

横浜町支部の青年部と女性部は、同町大豆田で開かれた町最大のイベント「菜の花フェスティバル」に参加しました。

屋台が軒を連ねる一角で、青年部は「ナガイモフライドポテト」・「チュロス」・管内産のナガイモやネギ、ゴボウをふんだんに使用した馬肉鍋を販売しました。

女性部は町特産のナタネ一番搾り油を使用した「菜の花ドーナツ」、菜花をトッピングした「菜の花そば」などを販売し、いずれも老若男女問わずの人気ぶりでした。



▲菜の花の特産品を販売する女性部員、JA職員

5/19



インドネシアから 技能実習生6人が仲間入り

インドネシアからの農業技能実習生が新たに6人加わりました。実習生の受け入れは平成28年からの取り組みで、今回来日した実習生は3年間、ももいし野菜センターで野菜の収穫や管理作業などの実習を通して日本の農業を学びます。

ももいし支店で行われた受入式では、実習生たちが「一生懸命がんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします」と日本語で自身の名前と意気込みを話していました。



▲新たに加わった農業技能実習生とJA役職員

5/21



盛り上がるマッドフラッグ! 泥まみれで水田へダイブ

青森県立三本木農業恵拓高校は恒例行事の「全校田植え」を生徒515人で行いました。生徒は水田に「まっしぐら」の苗を植え付け、速さや美しさを競いました。会場では、地元保育園児が応援にかけつけ「がんばれー」とエールを送っていました。

水田に立てた1本の旗を奪い合う「マッド・フラッグフェスティバル」には、28人の生徒がエントリーし、全身泥まみれになりながら、白熱したレースが繰り広げられ、会場は大いに盛り上がりしました。



▲泥まみれで旗をめざす生徒

5/26



泥に足を取られながら 田植えを楽しむ児童

十和田湖支部の青年部と女性部は食育活動の一環として、十和田市立法奥小学校の5・6年生15人に田植え指導をしました。

児童は裸足で田んぼに入り、泥に足をとられながらも、声を掛け合って目印に合わせて丁寧にもち米「アネコモチ」の苗を植え付けました。

作業を終えた赤坂諒くんは「最初は植え方が難しかったけど、段々と上手にできて楽しかった。お家の田んぼでもお手伝いできる」と話していました。

秋には稲刈りと餅つき体験も予定しています。



▲裸足で田植え体験する児童たち



5/8

天間林小3年生 アピオス植え付け



植え付け作業を楽しむ児童ら

七戸町立天間林小学校で生産者と小学3年生36人が8日、アピオスの植え付けを体験した。同町の特産品であるアピオスの特徴や栽培の歴史について理解を深めることを目的として、植え付けから収穫、調理して食べる一連の流れを毎年行っている。

アピオスの特徴や同町でのアピオス栽培について学習した後、実際に作業を行った。児童らは生産者から植え付けの仕方や注意点を教わり、種芋の植付方向を確認しながら手作業で植え付け。「大きなアピオスになるようにお世話を頑張りたい」「どんな味なのか気になる」と笑顔で話し、成長を心待ちにしていた。草取りなどの管理を行い、11月に収穫する予定。

5/21

子牛管理品評会 生産・育成技術向上目指す



去勢の部最優秀賞の「靖桜号」



雌の部最優秀賞の「よしとし号」

ゆうき青森和牛改良組合は21日、野辺地町のらくのう営農センター敷地内で第26回子牛管理品評会を開催した。去勢の部は江刺家栄作さんが出品した「靖桜号」、雌の部は浜田竹美さんの「よしとし号」がそれぞれ最優秀賞に輝いた。

管内の9戸の農家が、去勢の部8頭、雌の部10頭を出品。全国和牛登録協会青森支部職

員ら4人が審査員を務め、体高や皮膚の質感などを審査した。

品評会は、子牛の生産育成技術向上のため年2回開いている。

その他の受賞者は次の通り。◇優秀賞▷去勢の部＝小比類巻正幸▷雌の部＝小比類巻正幸 ◇優良賞▷去勢の部＝小比類巻正幸▷雌の部＝成澤真紀夫

5/21

ニンニク種子ウイルス検査



慎重に抜き取り作業を行う部会役員

J A ゆうき青森野菜振興会にんにく種子部門は21日、七戸町の圃場（ほじょう）でニンニク種子のウイルス検査を行った。原種・採種ともにウイルス罹病率は少ない傾向となり、適切な管理が確認された。2027年産として安定した供給ができる見込み。

検査は優良種苗の生産と安定供給を目的として毎年実施している。この日は、同振興会にんにく部会役員やJ A 職員ら14人が参加。葉の色や形状に注意し、慎重に抜き取りした。

同部門では、引き続き病害虫防除やウイルス株の抜き取りを徹底することを確認した。



病害虫対策の呼び掛け にんにく講習会

おいらせ農協やさい推進委員会ニンニク部会は4月17日に六戸地区で、22日に三沢地区でニンニク栽培講習会を開催しました。六戸地区では約40名、三沢地区では約30名が参加しました。

上北農林水産事務所農業普及振興室三沢分室の担当者、JAおいらせの営農指導員が講師を務め、ニンニクの栽培方法について確認しました。

今後の管理として病害対策は降雨前の予防散布、害虫は発生初期に防除するよう呼び掛けました。



六戸地区



三沢地区



ハウスの温度管理 と水管理の徹底 水稻現地講習会

JAおいらせ六戸支店は4月21日、六戸町農業振興対策協議会と共に六戸町内の3カ所にて水稻現地講習会を開催し、生産者37名が参加しました。上北農林水産事務所農業普及振興室三沢分室の担当者と、JAおいらせの営農指導員が講師を務め、育苗をする上でのポイントや、水稻用の除草剤について説明を行いました。

育苗中の苗代の葉齢に応じたハウス内の適切な温度管理と水管理について指導し、水稻用除草剤については、各除草剤の特性の解説を行い、雑草の種類に合わせた薬剤を選ぶこと、効果を適切に発揮させるための水管理などのポイントを合わせて説明しました。



令和7年度青森県東方沖見舞金贈呈



▲ 目録を受け取る若林組合長(中央)

5月11日、上長本店で、令和7年度青森県東方沖を震源とする地震に伴う特別災害救援活動に対する見舞金が、全共連青森県本部の葛西真司本部長より若林政秀組合長へ手渡されました。

JA共済は、これからも「地域に寄り添う共済」として、万一の際に安心していただける体制づくりを進めてまいります。

被害に関するご相談やお困りごとがございましたら、お気軽にお問合せください。

令和7年度JA共済優績組合全国表彰



JA八戸は、令和7年度の共済事業普及活動において顕著な成績を収めたことにより、全国表彰されました。

5月18日、上長本店で表彰伝達式が行われ、全共連青森県本部の葛西真司本部長より若林政秀組合長へ表彰状が手渡されました。JA八戸は、今回で4年連続の受賞となります。

組合員・利用者を第一に“寄り添った”3Q活動の実施に努め、今年度も普及活動に力を入れてまいります。



▲ 表彰状を受け取る若林組合長(左から2番目)

令和8年度JA共済事業推進大会



▲ 令和7年度優績者

4月23日、ホテル青森にて、令和8年度事業推進活動方策並びに令和7年度優績者の表彰を行いました。

受賞者については、広報誌6～8ページのJA八戸グループ令和8年度事業推進大会にて紹介しておりますので、ご覧ください。

JA自己改革のシンカ

農業編

No.9
2026.3.30

山形県 JAさがえ西村山

農業者の所得増大・農業生産の拡大

リンゴ輸出を大幅アップ

台湾中心に1億円突破

選別施設の集約が転機に

※シンカは、以下の3つの意味を含めた言葉。

自己改革の進化から深化へ、真価を発揮する
3つの「シンカ」

自己改革 実践中!



リンゴの単価アップへ 輸出に活路

山形県のJAさがえ西村山は、リンゴの輸出を軌道に乗せて2024年、輸出向けの販売額1億円を突破しました。

国内需要が低迷する中、JAは単価向上を狙い、栽培が盛んな朝日町とともに04年から台湾に14トンの輸出を始めました。残留農薬規制が厳しい台湾だったが営農指導を徹底。輸送過程で果実が傷まないよう強化段ボールを採用するなど、さまざまな品質保持策を取り入れ、マレーシアやフィリピンなど東南アジアにも進出しました。輸出量は15年に72トンまで増えました。

一方、輸出に対応していたのが朝日町にある選果場だけで、台湾でニーズの高い大玉果の量を確保しにくいことや、処理能力が課題でした。



輸出先の店舗に並ぶリンゴ

選果施設の集約で輸出量・額が大幅に増加

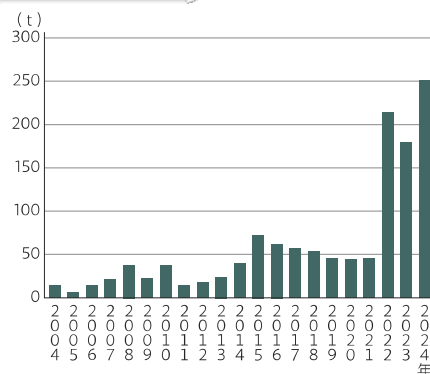
JAは、国の輸出拡大支援に関する事業を活用して、朝日町に広域選果施設を22年に新設しました。これにより、輸出向けのリンゴを大口で集荷できるようになりました。品種は「シナノスイート」や「ふじ」など4品種で、輸出量は同年、前年の4倍以上となる210トン、輸出向けの販売額は6倍以上の9100万円に急増しました。



広域選果施設での選果作業

鮮度保持には、リンゴの過剰な成熟を抑える1-MCPを処理できる設備を導入。果実に空気を吹きかけてダニ類やモモシクイガなどの害虫を吹き飛ばす設備も取り入れ、鮮度や品質を保持しやすくなりました。現在の輸出先も、台湾が8、9割を占めています。

輸出量の推移



さらなる輸出の拡大へ 適期作業を指導

品質の高いJAのリンゴは引き合いが強く、今作も400～500トンの注文がありました。近年は気候変動により輸出向けの大玉果を作りにくくなっていますが、JAは早めの摘蕾や摘果など、大玉果を安定して作れるよう営農指導に取り組んでいます。

また、全農グループのバリューチェーンを活用した輸出産地づくりの取り組みと連携し、台湾向けりんごの輸出を着実に増やしており、今後も連携を強化してさらなる輸出拡大を目指します。



現地店舗での販促の様子

問い合わせ JA全中 JA組織・経営対策部 JA改革支援課 ☎03-6665-6040 ✉jakaikaku.s@zenchu-ja.or.jp

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行／JA全中（一般社団法人 全国農業協同組合中央会）



JAグループ

耕そう、大地と地域の未来。

JA自己改革のシンカ

くらし・
地域編

No.10
2026.5.29

香川県 JA香川県

※シンカは、以下の3つの意味を込めた言葉。

自己改革の進化から深化へ、真価を発揮する3つの「シンカ」

地域の活性化

准組合員の視点を経営の力に 「パートナーズクラブ」で組織を活性化



「農業振興の応援団」の意思反映・運営参画に活路

JA香川県は、准組合員の視点を組合運営に反映させる「JA香川県パートナーズクラブ」の取り組みを軌道に乗せ、地域に選ばれる組織づくりを加速させている。

このクラブは「農業振興の応援団」である准組合員の声をJAに直接届ける場として2022年度に発足。准組合員の意見を取り入れることでJA事業をよりニーズをふまえたものへ進化させ、中長期的な組織基盤の強化につなげる狙いがあった。

JAでは、17年度から「准組合員との交流会」を各統括店で企画・運営し、JAと地域農業への理解促進を図る取り組みを展開しているが、さらに重層的に意思反映・運営参画できる仕組みを構築している。



意見交換会で活発に発言するメンバーとJA職員

具体的な施策へ反映 SNS活用など成果着々

参加者は会社員や子育て世代など幅広く、日常的にJAを利用する人たちが中心。年に3回集まる機会を設け、本格始動した25年度までに、延べ60人以上が参加した。

クラブの活動内容は、JAの事業紹介や、農産物直売所などの施設視察のほか、農業情勢を学ぶ研修、JAに対する提言書作成に向けたワークショップなど多岐にわたる。意見交換会ではJAオリジナル商品や、直売所の利便性など、准組合員であるメンバーとJAとの接点となる事業などをテーマに議論が交わされている。

活動は着実に進められている。例えば、22年度の提言において示された農産物直売所の情報発信の強化は、以前から必要性が認識されていた公式Instagramアカウント開設の方向性と合致するものだった。こうした背景のもと、農産物直売所による公式Instagramの投稿が始まり、情報発信の強化につながっている。

また、25年度からは、公式LINEアカウントを活用した情報発信も開始。メンバーとの接点を増やし、コミュニティとしてのつながりを深めている。



直売所のInstagram画面

自ら企画・運営する組合員組織へ 准組合員加入促進にも取り組む

参加した准組合員からは「役職員が自分たちの意見をしっかり受け止めてくれることがうれしい」「継続して参加したい」といった前向きな声が多く、組合との距離が縮まっている。

26年度は、これまでの研修を通じた理解深化に加え、JA香川県が准組合員を「正組合員とともに地域農業を支えるパートナー」、すなわち“農業の応援団”と位置付けていることを踏まえ、その裾野拡大に注力する。イベントでの組合加入のPRや、組合加入促進チラシ案の作成などを予定している。

JAは今後、クラブを単なる意見交換の場にとどめず、イベントの企画段階からの参画や、情報発信を担う「准組合員リーダー」の育成も見据え、准組合員とJAが一体となって新たな価値を生み出す仕組みの構築を目指している。



JAの体験型農園「讚さんファーム」で野菜の収穫を体験するパートナークラブのメンバー

問い合わせ JA全中 JA組織・経営対策部 JA改革支援課 ☎03-6665-6040 ✉jakaikaku.s@zenchu-ja.or.jp

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行／JA全中（一般社団法人 全国農業協同組合中央会）



JAグループ

耕そう、大地と地域の未来。



©みんなのよい食プロジェクト